

「情報拠点としての図書館とは」ワークシートまとめ

1、情報拠点のイメージ	2、情報とは	3、情報拠点としてどうあるべき
<p>課題解決の場 インターネットや書籍などから得られる汎用性の高い単なる情報から、自分にとって具体的に役に立つ情報へと転換される場</p> <p>適切な情報発信の場 時代の変化に対応しながら、その場に応じた適切かつ必要な情報を発信していく場</p> <p>新たな好奇心に繋げていく場 必要な情報を得られるだけでなく、潜在的な情報ニーズを引き出し、興味や関心が広がり、深まり、発見のある場</p> <p>歴史や文化を積み重ね、伝えていく場 情報のアップデートしながら地域の歴史や文化を伝え守っていく場</p> <p>人々が交じり合い、体験が生まれる場 利用者同士が交流し、行ってみようと思える居心地の良い空間。区民と協働でより良い図書館を作りあげ、図書に限らない、コミュニケーションとしての情報も扱う場</p> <p>信頼性があり、多角的な情報提供と情報格差の是正に寄与する 玉石混交な情報を処理し、必要な情報に導き、多角的な視点を得られる</p> <p>平等かつ公平な情報提供 様々な情報が集まり、集め、整理・保存し、発信していく場所。誰もがアクセスが容易で身近で、平等・公平に情報を得られる</p>	<p>区民が知りたい情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活に関わる情報(子育て、介護、健康医療) 知見・関心が広がる情報(学習、ビジネス) 話題の書籍 知りたいことを調べるための手法やナビゲーション <p>区民に知らせるべき情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての区民にとって重要である情報(医療、防災、防犯、詐欺、政治経済) 生活の課題解決につながる情報(子育て、介護、健康医療) 教育に繋がる情報 専門的な情報 地域文化、芸術 感染症や環境問題など時事問題に関する情報 新たな経験を促すような情報 地域資料、地域情報 地域資料などを生かして、地域に密着した情報を創出 まちづくりの知恵や経験 地域に対する行政の考え 図書館のサービスや活動そのもの 地域特性やニーズを踏まえた情報(事業も含め) <p>取り扱う情報の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 汎用性のある情報 書籍に加え、電子情報 障害者や外国人などあらゆる人が理解できる情報 体験やコミュニケーション レファレンスサービスなど本によらない情報 社会的ネットワーク(地域における人脈、他地域との繋がり) <p>求められる情報発信の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> あらゆるメディアや機会を利用した情報発信(掲示板、ホームページ、動画配信、SNS、講演会、講座、テーマ展示、デジタルサイネージ等) 図書館側から区民に向かっていく(アウトリーチ) 学習会(ワークショップ、まち歩き) ICTを活用し、時間的制約のないサービスの提供 地域やボランティア団体、組織に繋げていく 	<p>練馬区立図書館の印象</p> <ul style="list-style-type: none"> 「交流」やあらゆる人の「居場所」としてのイメージはない 子育て世代の交流は散見されるが幅広い世代の交流が不足 <p>「居場所」「交流」の視点で見たときに図書館は今後どうなっていくか</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の枠に捉われない施設の融合型 生涯学習を担う施設 施設間同士の交流、連携を行っている 利用者同士や地域団体が繋がっている 区民が自らサービス向上に関与する 様々な体験が出来るようなスペースの確保 オンラインでも交流が出来る こども、青少年、高齢者それぞれの用途に合った空間 親子が過ごしやすく、滞在しやすい空間 各世代を結び付けた交流の場 知的関心を喚起するイベントの実施 デジタルデバイスやリテラシーの問題に寄与する拠点 情報を調べるための存在ではなく、交流、発表、議論の場となる Google のようなリアルな情報センター 区民と協働で多様な取り組みを展開(まちじゅう図書館など) 区民の意見を取り入れる、参加できる図書館 <p>拠点としての役割とは</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー教育、発信 情報をただストックする場所ではなく、区民の知りたいニーズとシーズを満たすこと 情報を手に取るきっかけを作り、そこから発展して経験を深める あらゆる情報をオンライン、オフラインで届ける サービスやオンライン自体はデジタル化していくが役割自体は変わらない <p>情報格差への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人、障害者など誰もが情報を得られる環境の整備 情報機器の取り扱い講座など実施 操作だけでなく、情報収集の仕方を学ぶ機会の抽出 情報リテラシー講座 各種データベースによる信頼性の高い情報の提供 地域館がある強みを生かして、情報収集手段の標準化に向けた教習所、情報の窓口にしていく 情報機器自体の使い方を教えないと情報に到達しない人もいる